

- 事業名：平成16年度 男女共同参画の視点で進める地域づくり事業<桑名・員弁生活創造圏>
- コーディネーター氏名（所属）： 岡嶋多華夫（みえ市民活動ボランティアセンター）
- ふりかえり会議開催年月日：平成17年11月28日（月）

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）  
 東員町が住民リーダーを育成する事業で参加者を呼びかけ、それに応募した住民が中心となつてつくれた団体が「東員町男女共同参画まちづくり推進の会」で、毎年勉強会や自主事業を実施している。今回の協働事業では従来の「住民向けミニ講座」に加え、さらに町職員の意識向上のための「職員研修」を実施しており、プログラム考案だけにとどまらず講座や研修の講師も自分たちで行っていて、会が自主的に実行している姿勢と、町が支えようとしている姿勢が伺えた。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）  
 4年間くり返し講座を行った結果、もっとわかりやすく伝えたい、もっと効果的に啓発していく戦略を練りなおしたい、もっと内容を面白くしたい、という思いが会のメンバーから出てきており、より内容を改良していく方向に進んでいる。

「ミニ講座をやってほしい」という老人施設からの依頼もあり、少しずつ啓発が広がっているようだ。メンバー内の温度差があるという意見があったが、それは感じられなかった。むしろ、個性、目の付け所の違い、得意分野、適材適所をデザインできていないとは感じとれた。このギャップはこれからの改良作業の中で埋まると期待している。

3. 事業実施体制について

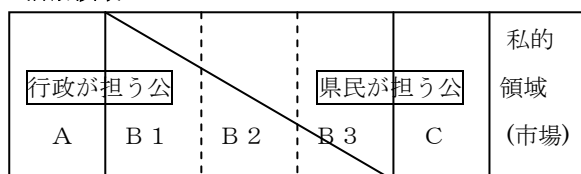
（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）  
 東員町は作業環境と資金面をサポートしており、団体を自立させていこうという姿勢が見られた。会メンバーからは、もっと計画段階から携わりたいという意欲的な意見があったが、会の今後の方向性が決まった後に、町と県民局で一度ミーティングしてみても良いのでは。それから、もっと色々な人や地域に関わってもらう為に、核を複数作る、広がりを出掛けるという趣旨で、桑名地区の住民からアイデアや事業提案を募集するという動きを県民局側がしてみるなど、実施維持のためのサポートだけではなく、よりクリエイティブにするためのサポートがあっても良いのでは。（会を自主的に運営して創意工夫する人材が定着しているからこそ、次の一手があってもいいと思う）

4. 活動領域について

（資源配分と責任分担の視点から）

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B1	B2

公の活動領域



公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域

## ふりかえり会議（中間検証）コーディネーター意見書

- 事業名：男女共同参画の視点で進める地域づくり事業
- コーディネーター氏名（所属）：中盛 汀（W.T.A まちづくりセンター）
- ふりかえり会議開催年月日：平成17年11月28日

### 1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）  
東員町リーダー養成研修に参加したメンバーなど、公募により集まった10名で構成。予算は県が主で持ち、市も予算化はしている、とのこと。

### 2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）  
市から話が出た職員研修を実施。ほぼ全員の市職員に向けて男女共同参画の研修をメンバーで企画、実施された、とのこと。アンケートも取り、取りまとめは市に任せているため、ふりかえりの時点では結果はまだメンバーも見えていない状況。また、ミニ講座として、カルタなどを使って啓発を展開。他の施設などからもミニ講座に対する養成が来ているそう。

### 3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）  
会議としては月に1, 2回集まって、講座などに向けた話し合いがされているようだが、メンバー間での意思の疎通までいたりきれていない部分もあったように感じた。核となるメンバーももっと広げて行ってもいいように思うが、公募をしてもなかなか入ってこないそう。そこでまた見直しも必要。

講座に関しては、十分に出前講座として独立できる要素も持っていると思うので、自分たちで資金を捻出することも可能ではないかと感じる。また、カルタも前回はすでに他で作られたものを使用した、と聞いたが、これから東員町として募集をかけてカルタにする言葉を集め、広く市民へ発信することにより、裾野を広げる方向へと持っていけるように思う。また、会の中で十分な話し合いを持つ、と言うよりは、楽なほうへ話が流れてしまうと言った点もメンバーから聞いたので、参加されてるメンバーが目指したい方向をしっかりと話し合い、共有する中で、部会的に分かれて新たに仲間を募ると言うのも一つの方法だろうし、今後は、十分話し合いをしてメンバー間の思いを共有してもらえれば、より活発な活動へとつながっていくと思う。

アンケート集計や連絡については、市が主になって進めているのが現状だそうで、市ももっとメンバーへ役割を分担していくことも必要。会議の中で議題として出していき、話し合えば、十分協力はいただけると思うので、全体としてもっと役割分担や意思決定などの部分をつめてもらえればいいのではないか。

### 4. 活動領域について

（資源配分と責任分担の視点から）

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B2	C

公の活動領域

#### 公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域